

平成 29 年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）進捗状況報告

（平成 30 年 3 月）

報告者氏名・所属	川前あゆみ・学校・地域教育研究支援センター へき地教育研究支援部門	
研究プロジェクトの名称	へき地・小規模校教育に関するプロジェクト	
プロジェクト担当者 (氏名・所属・職) ※代表者に●を付すこと	学校・地域教育研究支援センター へき地教育研究支援部門 ●川前あゆみ・へき地教育研究支援部門・部門長 ※「へき地教育研究支援部門」構成員において適宜役割を分担するものとする。	
研究プロジェクトの概要等		
<p>本プロジェクトは、本学の特色ある教育・研究活動の1つとして重点研究領域にも位置付けられている研究領域である。過去には、本学の学校・地域教育研究支援センター へき地教育研究支援部門（通称：へき研）が平成17～20年度に採択した『特色GP』においてもへき地教育研究に関する一定の成果を上げてきた。これらの研究を発展的に推進したのがHATOプロジェクト（平成24～27年度）の取組である。</p> <p>へき地・小規模校教育に関するプロジェクトは、第3期中期目標・中期計画【15】の「重点分野研究プロジェクト」並びに、中期計画【16】に位置づくHATOプロジェクトの研究成果を生かすことを目的とする。へき地・小規模校教育に関するプロジェクトを、へき研を推進母体として継続的・発展的取組を目指す。北海道教育大学が中心となってHATO連携大学に対し、へき地教育実習とへき地教育プログラムの成果を波及させ、相互の取組の交流とさらなる情報交換を進めていく。</p> <p>とりわけ、本学の教員養成3キャンパスで推進している「へき地校体験実習」は、学校統廃合が進む中でも平成29年度は全道28市町村57校130名が受講し、平成17年度の大学再編以降の受講延べ人数は、千数百名の実績を誇る。本プロジェクトでは、これらの受講生がより充実した学びになる取組として、複式・少人数指導の教材を開発し、これまで『複式学級における学習指導の手引』や『複式授業の映像資料【算数】【社会】』を制作した。現在、「へき地校体験実習」の実習事前指導や事後指導において活用と検証を進めている。</p> <p>さらに、これらの教材を用いてHATO連携大学への“出前授業”を開催し、地域性や学校規模等が異なる環境の中で教員養成大学に学ぶ学生が、小規模校化していく学校現場で教壇に立つ際の参考となる教材や複式授業の指導法を体系的に提示することが可能となった。本プロジェクトでは、これらの活動を継続的に連携大学と相互交流をし、教員養成大学における学部・大学院の段階に応じた教材の活用の効果を検証していく。</p> <p>そして、平成29年度は「へき地校体験実習」を受講した札幌校・旭川校・釧路校3キャンパスの学生が集い、北海道各地で基幹産業や地域性の異なる環境の中で教職を目指すことの意義を会得し、今後の教員養成段階における大学の指導課題を見出すフォーラム等を開催する。このフォーラムでは、日本の教育課題となっている小規模校化に対応していく教員養成のあり方を多角的に議論できる研究の機会を大学として担っていく。</p>		
進捗度	1	←番号を記入 1. 順調に進んでいる 2. ほぼ順調に進んでいる 3. やや遅れ気味 4. 遅れ気味
<p>(進捗度が3若しくは4の場合、問題点等の理由を記入願います。)</p> <p>予定していた内容を順調に実施した。</p>		

研究実績の概要

以下の主な取組（H A T O連携大学にかかわる①“出前授業”、②合同研修、③フォーラム）を通じて、日本の人口減少社会における学校の小規模化に対応する教員養成のあり方を本プロジェクトで推進してきた。

【平成29年度】

○H A T O連携大学等の“出前授業”

本学が開発した『複式学級における学習指導の手引』や『複式授業の映像資料【算数】【社会】』等の教材を活用した“出前授業”を実施し、H A T O連携大学並びに他大学への普及を図った。

- ・10/20 弘前大学における“出前授業” 受講生88名（学部1年生対象）
- ・12/8 東京学芸大学における“出前授業” 受講生22名（学部3年生対象）
- ・12/20 大阪教育大学における“出前授業” 受講生60名（学部2年生対象）
- ・2/27 愛知教育大学における“出前授業” 受講生7名（教職大学院生）

○へき地校体験実習の実習指導等に関するH A T O連携大学との合同研修

平成29年度は、H A T O連携大学共同研究者による実習に関する研修を行った。具体的には、本学が推進する、へき地校体験実習の事前指導の実際を視察してもらい、その指導のあり方を研修会として位置づけ、各大学の実習指導並びに教員養成段階における学生の資質向上に向けた指導改善に反映させることを目的とした。

- ・へき地校視察：平成29年9月22日 北海道へき地複式教育研究大会各分科会 参加者14名
- ・開催日：平成29年9月22日（金）
- ・場所：北海道教育大学釧路校
- ・参加者：14名

研究会の主な話題は次のとおりである。9/22全道大会各分科会による事後交流を中心にしながら、全国的な学校の小規模化に対応する指導方法の開発・普及に向けた課題の整理と方策について検討した。主な項目を以下に示す。

1. 日本総人口減少社会における学校の課題

(1) 日本総人口減少社会の課題

- ①東京圏以外は人口減少→地方中核都市もほとんど人口減少
- ②学校の小規模校化現象→全国学校の51%が既に小規模校→さらに単級学校化
- ③地域の過疎化→地域崩壊現象

(2) 人口減少社会における学校の課題

- ①学校と地域が一体となった学校づくりと地域づくり
- ②学校の小規模校化に対応した指導内容・指導方法の効果的なあり方の課題
→へき地小規模校では既に早い段階でこれらに対応してきている。

(3) 全国的な教育政策の課題

- ①コミュニティスクール化、②社会に開かれた教育課程、③カリキュラムマネジメント、④自然体験学習・農漁業体験学習、⑤コミュニケーション力・表現力、⑥異学年・異年齢集団、⑦インクルーシブ教育、⑧チームとしての学校、⑨世代交代による若手教員の育成

○平成29年度「へき地・小規模校教育フォーラム」開催（平成30年3月8日）

本学では、教育活動の特色ある取組の一つとして、へき地校体験実習を推進しており、平成29年度は札幌校、旭川校、釧路校の教員養成3キャンパスに所属する2年生から4年生までの130名が受講した。北海道内28市町村57校で実習生を受け入れていただいた。

フォーラムは3部構成で催され、第Ⅰ部と第Ⅱ部では、学生によるへき地校体験実習の成果発表と質疑を行った。第Ⅰ部では、釧路町立昆布森小学校の発表から、沿岸地域にあるへき地校の「磯の学習」や「昆布干し」体験学習、「魚」を使った調理実習など特色ある実践の紹介と、複式学級における学年別指導の教壇実習の成果と課題を報告した。また、富良野市立布部小中学校

の発表から、小中併置校による教職員の協働性や児童生徒とのかかわり、9年間を見通した教育課程の工夫など、併置校ならではの実践の紹介があった。さらに、日高町立日高小学校からは、養護教育専攻の学生がへき地小規模校の養護教諭の仕事に学んだ成果の発表があった。

第Ⅱ部のポスターセッションでは、6校の実習生が地域環境も学校環境も異なる実習校での各学生が学んだ実習の成果を発表し、その場で10分間の質疑応答に答えていた。

第Ⅲ部では、「へき地教育の発展を目指した実践研究と今後の課題」と題して、本学旭川校の芳賀均講師が登壇し、前半は「教員養成を意図した学生指導の取組」について、音楽演奏を通じた学生の成長とへき地での地域貢献の成果を実演も交えて話題提供いただいた。後半は、へき地小規模校での「教科横断的総合的学習の試み」と題して「音楽と理系領域」「音楽と国語」「音楽と体育」の教科横断的な取組の可能性が提示された。

本フォーラムには44名の参加者があり、各発表に対する質疑応答も活発に行われた。今後の取り組みに深まりと広がりをもたせる内容も多くあり、盛会に終えることができた。

今後の研究プロジェクトの推進計画

今後の推進計画には、以下の予定がある。

【平成30年度】

○HATO4大学の主幹大学として本学が先導して、開発した複式学級における学習指導の手引及び映像資料を活用した研修会や出前授業の規模を拡大させ、他の教員養成系大学とのネットワークを広げていく。

- ・弘前大学における“出前授業”
- ・大阪教育大学における“出前授業”
- ・東京学芸大学における“出前授業”
- ・愛知教育大学における“出前授業” ほか

○他大学との相互交流と全国普及を目指したフォーラム

第3期中期目標・中期計画で位置づけられているHATOプロジェクトの発展的な取組として、本学(札幌・旭川・釧路)の学生による「へき地校体験実習」の成果発表から教員養成大学としての今後の可能性を確認することとしている。平成30年度は、へき地・小規模校教育研究センター発足の年度として、研究分野に特化したフォーラムの開催を目指す。他方、本プロジェクトでは、毎年学内フォーラムは実施しているが、他大学を交えた交流については予算都合上、隔年もしくは数年後に向けた相互交流を計画していく。

教育現場や地域で活用可能な成果等

研究成果の公表実績

【著書】（著者、書名、出版社、発行年・・・等）

【学術論文】（投稿中も含む）

（著者、表題、雑誌名、巻・号、発行年、頁・・・等）

【学会発表、シンポジウム、セミナー、演奏会、展覧会、競技会、普及啓発イベント等】

（名称、開催年月日、開催場所、参加者数・・・等）

①平成29年度日本教育大学協会研究集会、平成29年10月14日開催、愛知県刈谷市生涯学習センター、ポスターセッション参加

②平成29年度HATOプロジェクト最終年度報告シンポジウム、平成29年12月9日開催、一橋講堂、ポスターセッション参加『HATOへき地・小規模校教育プロジェクトにおける研究成果と今後の成果推進の可能性』

<p>③平成29年度HATOプロジェクト最終年度報告シンポジウム、平成29年12月9日開催、一橋講堂、口頭発表、『HATOへき地・小規模校教育プロジェクトにおける研究成果と今後の成果推進の可能性』</p> <p>【テキスト、報告書、研修資料等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『へき地教育研究』紀要第72号、北海道教育大学 学校・地域教育研究支援センター へき地教育研究支援部門、北海道教育大学、平成30年1月刊行 ・平成29年度HATOプロジェクト最終年度報告シンポジウム資料、平成29年12月9日開催、一橋講堂、『HATOへき地・小規模校教育プロジェクトにおける研究成果と今後の成果推進の可能性』 p. 36-p. 38、平成29年12月刊行 	
添付資料	
ダウンロード可能なドキュメント	
関連URL	<ul style="list-style-type: none"> ・ http://hato-project.jp/hue/project/p2.html ・ http://hekiken.kus.hokkyodai.ac.jp
問い合わせ先	<p>氏名：川前あゆみ</p> <p>電話：0154-44-3291</p> <p>(学校・地域教育研究支援センター へき地教育研究支援部門)</p> <p>E-mail：kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp</p>